

高山植物等保護管理事業（グリーンパトロール）の取組について

中 信 森 林 管 理 署 白 馬 森 林 官 ○ 寺 島 史 郎
グリーンプアトロール隊員 大 学 生 ○ 波 多 野 肇

要 旨

当署では、夏山最盛期の約1ヶ月間、一般募集の隊員により、山岳地帯での希少な動植物等の保護のため、高山植物等保護管理事業（グリーンパトロール）を実施しています。しかし、隊員の応募者の減少、隊員の安全確保の向上、注意指導件数の減少がなかなか見られないなどの課題があり、今後活動を継続していく上で、これらの課題の解消が不可欠になっています。今回の発表は、白馬地区におけるグリーンパトロール事業の現状と課題、その対策を取り上げ、これからの進むべき方向を考察します。

1 はじめに

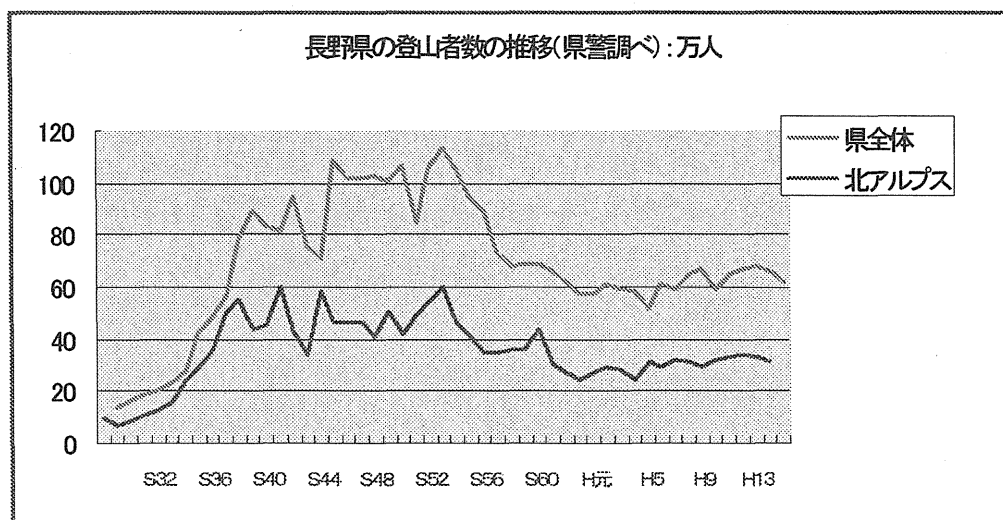
当署では、北アルプスをはじめとする我が国を代表する雄大な山岳地域を管轄しており、多くの登山者が訪れています。しかしながら、高山植物等の違法採取や踏み荒らし、また、ゴミの投げ捨てなどがなかなか減らない現状にあります。当署では「高山植物の保護」「山岳環境の美化」を目的に、白馬地区、涸沢地区、乗鞍地区において高山植物等保護事業（グリーンパトロール）に係わる巡視及び高山の美化活動に長年に亘り取り組んできています。

今回、白馬地区におけるグリーンパトロール事業の現状と課題、その対策を取り上げ、これからのグリーンパトロールのあり方の一助とします。

2 活動概要

(1) 発足経緯、あゆみ

長野県においては、昭和30年代以降から昭和50年代までは登山者等が急増しました。（図表-1）北アルプスでは、昭和30年代以降にかけての登山者等の急増に伴い、高山植物等の保護に対する認識不足から、「禁止区域の侵入」や「摘み取り」などの行為が相次ぎ、当時の松本営林署及び大町営林署の職員による監視活動が行われるようになりました。



(図表-1)

涸沢、乗鞍地区においては、昭和39年に「高山植物等保護巡視員」制度を設けて、大学生を中心に、常駐による巡視、清掃、PR活動を開始しました。「グリーンパトロール」という名称は、昭和43年に大学生などの保護巡視員に付けられたことが始まりです。現在は、安曇村との連携を図りながら活動をしています。

白馬地区においては、昭和11年に旧大町営林署が監督員詰所を新設し、常駐監視活動を開始しましたが、昭和45年にグリーンパトロール隊を組織化し、グリーンパトロールとしての高山植物等保護活動を開始しました。

昭和55年には、「北アルプスを美しくする会」による、クリーンパトロール隊が設立されましたが、昭和63年に両隊を合併させ、新生グリーンパトロール隊として発足しています。現在は、白馬村との連携を図りながら活動をしています。(図表-2)

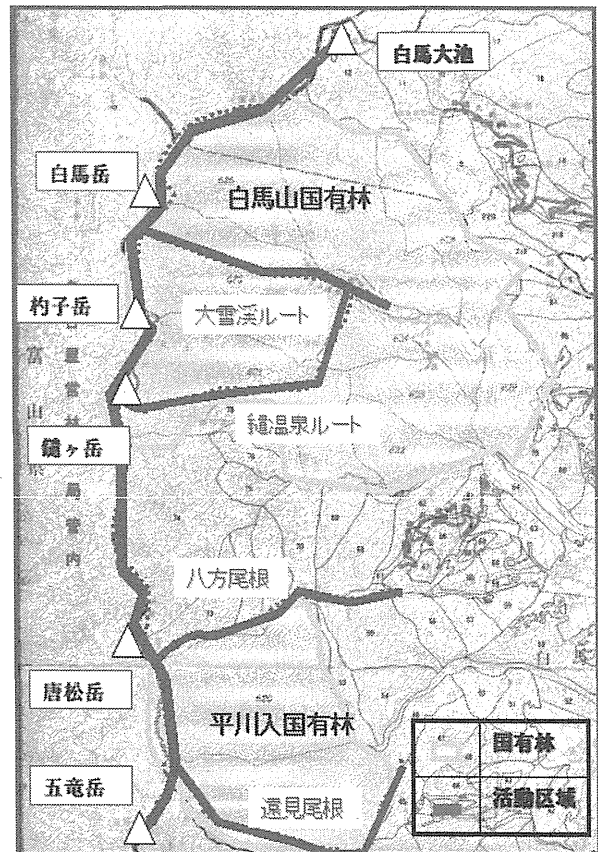
白馬地区グリーンパトロール隊	松本地区グリーンパトロール隊
昭和11年 監視員詰所新設 常駐の監視員活動開始	昭和39年前 松本営林署職員・臨時職員による巡視活動
昭和26年 戦時中休止した常駐監視員による巡視活動再開	昭和39年 正式に「高山植物等保護巡視員」制度が始まる(大学生を中心に上高地・乗鞍・中標・美ヶ原での常駐による巡視・清掃・PR活動)
昭和33年 大町営林署職員の交替出張パトロールと臨時職員による巡視	昭和43年 大学生等による高山植物保護巡視員に「グリーンパトロール」の愛称がつけられる
昭和45年 白馬グリーンパトロール隊活動開始	昭和44年 「松本営林署が悪質な高山植物荒らし約2万人摘発を発表」と全国紙で報道される
昭和52年 「北アルプスを美しくする会」設立(以下、北ア美会と表記)	昭和49年 違反者件数が年間5,000人に減少するなど活動の効果が現れる
昭和55年 「北ア美会」グリーンパトロール活動開始	昭和60年 違反者件数が年間1,000人台に減少
昭和63年 グリーンパトロール隊とクリーンパトロール隊が合併(新制:グリーンパトロール隊)	平成7年 安曇村との連携による委託事業開始
平成7年 白馬村との連携による委託事業開始～現在	～現在

(図表-2)

(2) 活動内容

白馬グリーンパトロール隊は、大町市、白馬村、小谷村及び北アルプス北部に関係する観光関係者により結成された「北アルプスを美しくする会」と、中信森林管理署が白馬村振興公社と委託契約を行い実施しています。

活動内容は、白馬村の村営頂上宿舎を拠点としながら、「登山者に対する高山植物の保護の呼び掛け」、「踏み荒らしなどの防止のためのグリーンロープ張りや、看板設置及び改修」、「登山者に対する花のガイドやコース案内などの、いわゆるインタープリテーション」、「避難小屋の管理」、「ゴミ拾い」、「高山植物の開花状況調査」「大雪渓ルート」の登山者数の調査」などと多岐に渡り、パトロール範囲は、北は白馬大池から白馬岳、杓子岳、鑓ヶ岳の白馬三山を経て、南は唐松岳及び、五竜岳までと広範囲に活動しています。(図表-3)



(図表-3)

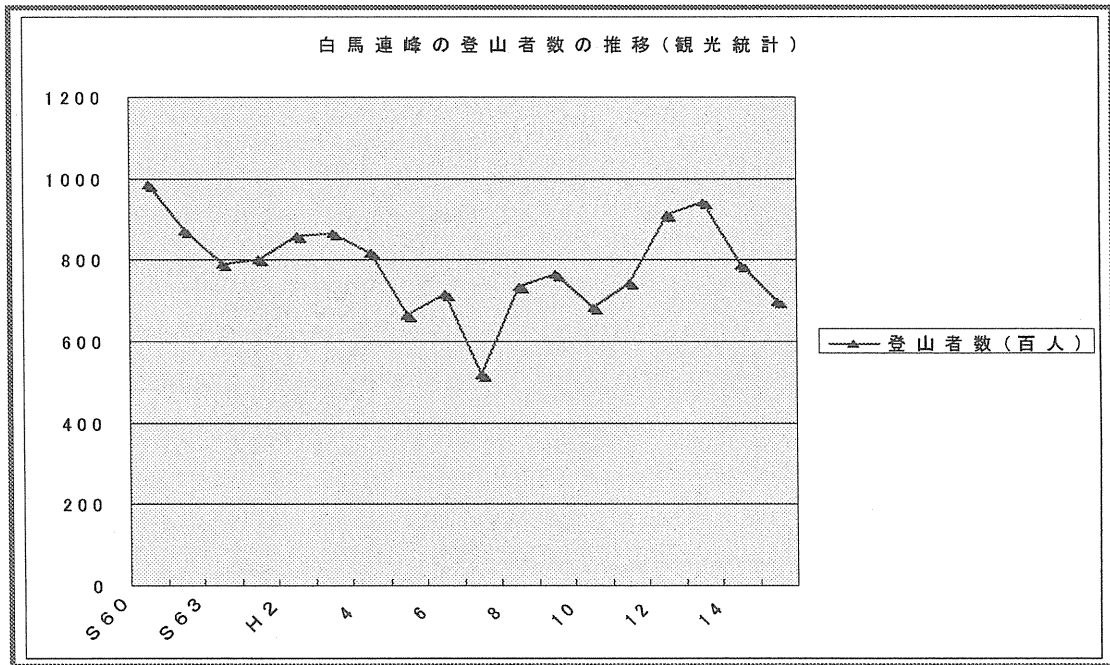
3 活動報告

グリーンパトロール隊員が実施している、「登山者数の調査」、「注意指導等の件数」、「高山植物の開花状況調査」について報告します。

なお、「登山者数調査」、「高山植物の開花状況調査」については、隊員自ら発案し、本来業務の合間に、付加的に実施しているものです。

(1) 登山者数の調査（白馬大雪渓ルート）

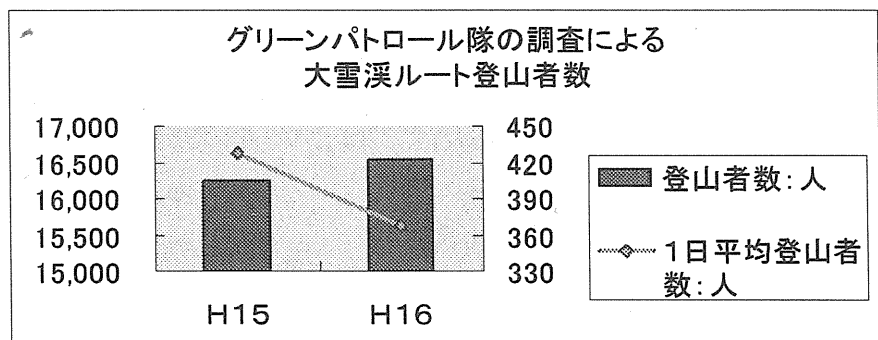
最初に、過去18年間の白馬連峰の登山者数を観光統計で見ると、昭和60年から平成7年までは、減少傾向にありましたが、平成8年から平成13年までは登山者も増加しています。これは、百名山ブームによる中高年登山者等の増加によるものと思慮されます。しかしながら、平成13年度をピークに翌年からは、減少傾向を辿りはじめています。（図表-4）



(図表-4)

また、白馬グリーンパトロール隊として、平成15年度と平成16年度に大雪渓ルートの登山者数をカウントしましたが、これを見ますと、両年度とも約16,000人となっています。（図表-5）活動日数が、平成15年度が38日間、平成16年度が45日間ですので、1日当たりの平均登山者数では、平成15年度が430人、平成16年度が370人となり、大雪渓ルートの2年間の変化だけではあります、減少傾向にあると見受けられます。

要因としては、夏山最盛期の天候不順も考えられますが、観光統計と照らし合わせてみても、一時のような百名山ブームが下火になり、中高年登山者の入り込みが減少したものと考えられます。

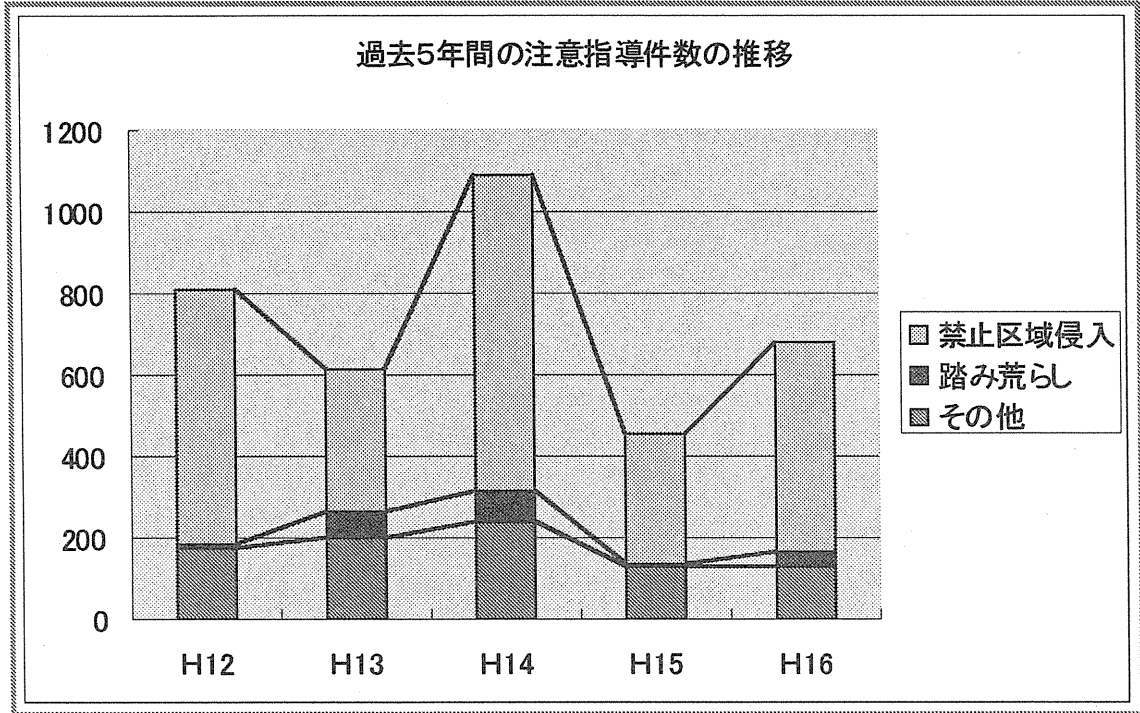


(図表-5)

(2) 注意指導件数等について

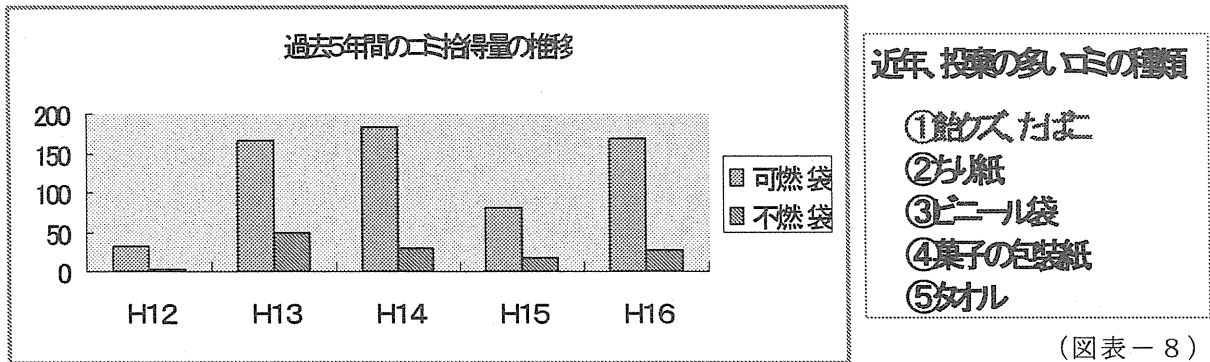
白馬地区における過去5年間のグリーンパトロールによる注意指導等の件数は、平成12年が810件だったものが、今年度は、680件であり、減少傾向であると考えられます。(図表-6)

しかしながら、「禁止区域への侵入」、「踏み荒らし」など、安易な行為が見られる他、「ペット連れ登山」、「高山蝶の採取」なども見受けられ、巡視指導の強化など、さらなる対応が求められています。



(図表-6)

また、過去5年間のゴミの拾得量は、減少傾向にありますが、(図表-7) 相変わらず、ゴミが無くなることはなく、ゴミの種類の上位は、1. 飴クズ、たばこの吸い殻、2. ちり紙、3. ビニール袋となっています。(図表-8)



近年、投棄の多いゴミの種類

- ① 飴クズ たばこ
- ② ちり紙
- ③ ビニール袋
- ④ 菓子の包装紙
- ⑤ タオル

(図表-8)

(図表-7)

注意指導の件数や、ゴミの拾得量は、過去の様なひどい状況はあまり見られなくなりました。長年、地道に継続してきたグリーンパトロール活動の成果が、現れてきているものと考えられますが、今後とも巡視・指導の強化をすることにより、登山者等に意識の向上を訴えていきたいと考えています。

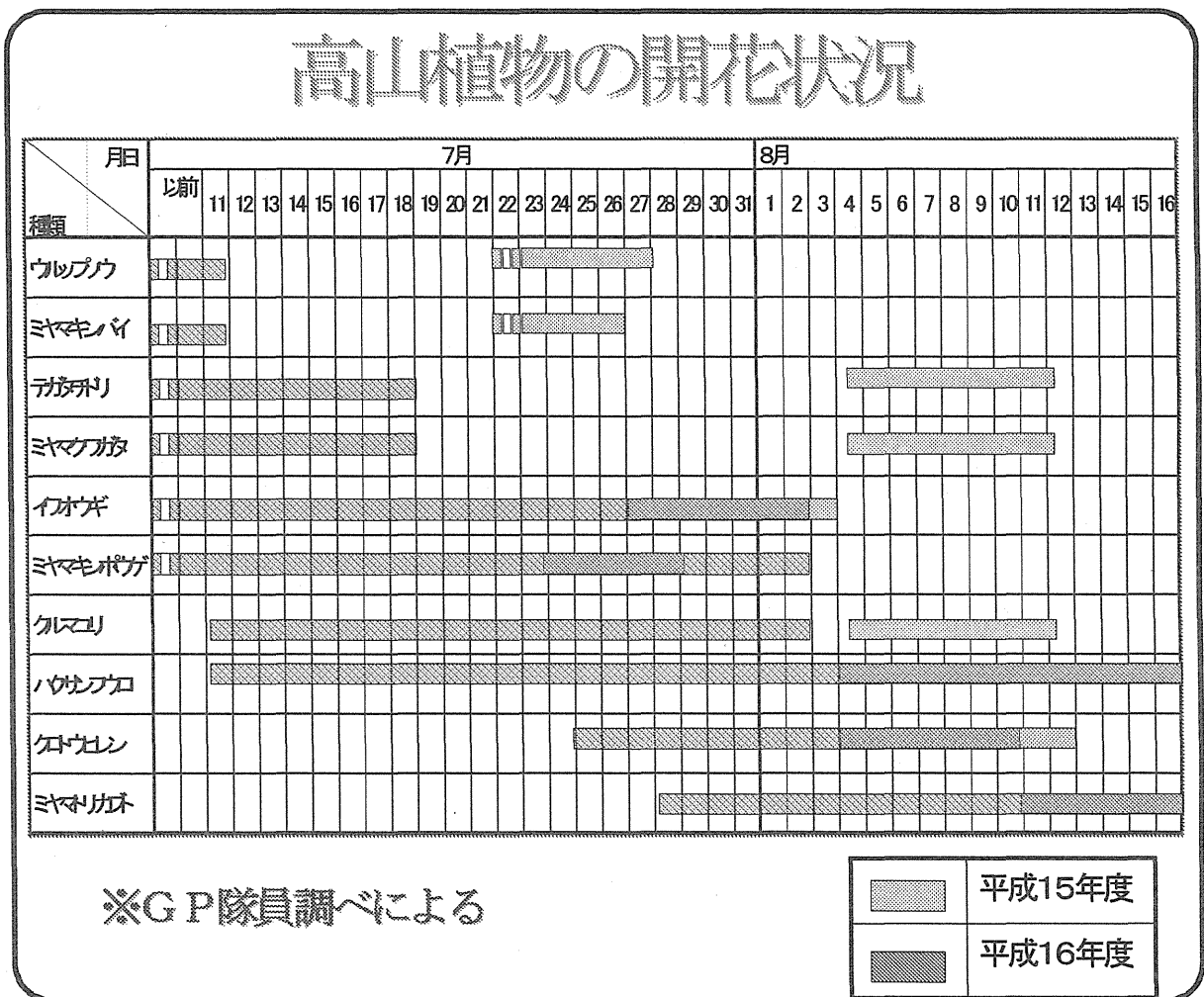
(3) 高山植物の開花状況調査

続きまして、平成15年度から、隊員が高山植物の開花状況を調べはじめましたので、参考までに報告します。

まず、図表-9を見ますと、白馬山域の高山植物の開花は15年度と比較し16年度は全体的に2週間程度早くなっていました。ちなみに、ウルップソウについては、昨年度は7月下旬位に開花したものが、今年度は7月初旬位となりました。ハクサンフウロについては、昨年度は8月上旬位に開花しましたが、今年度は、7月初旬から7月中旬となっています。

今回の調査は、2年間の比較ですので、一概にはいえませんが、「ソメイヨシノの開花日が、この10年間で、平年より3日も早くなっている」との、国立環境研究所の報告もあり、地球温暖化による気温上昇の影響も考えられます。

今後も継続的に調査していく中で、環境の高山植物等に対する影響を調べていきたいと思えます。



(図表-9)

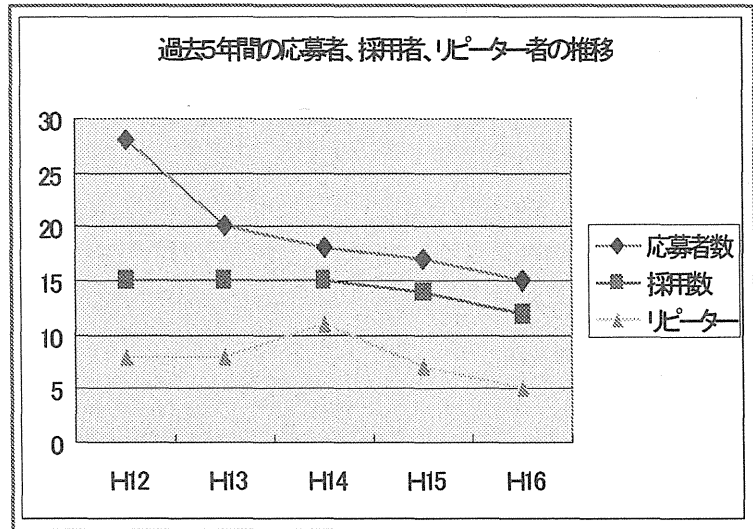
4 課題と対応策

グリーンパトロール事業を継続していく上で、対応すべきいくつかの課題があります。ここでは(1)グリーンパトロール隊員への応募者が減少。(2)隊員の安全確保の向上。(3)注意指導の減少がなかなか見られない。の3つの課題を取り上げ、それらに対する対応策を考えていきます。

課題(1)・・・隊員の応募者の減少

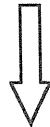
まず、グリーンパトロール隊員への応募者の減少についてです。下図(図表-10)を見てみると、過去5年間の応募者、採用者、以前に経験したことがあるリピーター隊員数が、いずれも減少傾向にあります。

要因としては、大学の期末試験が7月に実施されること、若者のライフスタイルの変化などにより、山で働きたいという希望者自体の減少しているなどが考えられます。このような状況は、グリーンパトロール隊だけでなく、山小屋のバイトの応募状況にも、顕著に見受けられました。



(図表-10)

このため、①夏山の最盛期に満度な活動できない、②引き継ぎ不足による、隊員間のコミュニケーションの低下が生じる、③経験者が少なくなり、保護指導能力や、登山者からの質問に答えるなどのインタープリテーション能力が低下する。などの問題が生じています。



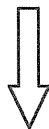
対応策として

- ① 従来の山岳雑誌や村のホームページによる応募方法の他、全国の大学などの機関に情報発信するなど、新たな募集方法を取り入れ、応募者の拡大を図る
- ② 過去の隊員で自発的に結成された、「白馬グリーンパトロール隊を支援する会」の協力を得て、過去の隊員に情報発信し、積極的な参加を促す
- ③ 地元の有線放送などで呼び掛け、「地元の山は地元で守る」意識を高めることにより、地元の参加者を募る
- ④ 初心者にもスムーズに活動に入れるような、グリーンパトロールのためのガイドブックを作成する

などを考えていきたいと思ひます。

課題(2)・・・隊員の安全確保の向上

続きまして、隊員の安全確保の向上についてです。グリーンパトロールの活動を実施していく上で、隊員の安全を守ることは大変重要なことでもあります。しかしながら、活動範囲が標高3,000mに近い高山地域であり、天候の急変、落石などの危険が隣り合わせにある活動となっています。山岳地域の活動では、今まで以上に、高い安全を確保する必要があります。



対応策として

- ① 雷対策などの山岳気象環境や救急法などを含めた安全教育の徹底
 - ② 緊急連絡体制の徹底を図る観点から、無線や携帯で、隊員が行動する際の定時連絡の徹底を図るとともに、携帯電話の通話可能エリアの隊員へ周知
 - ③ iモード等の気象情報ツールなどの活用
 - ④ 隊員の体力に合わせ、巡視方法を工夫していく
- などを考えていきたいと思います。

課題(3)・・・注意指導件数等の減少がみられない

続きまして、注意指導件数の減少がなかなか見られないという状況です。これについては、前述の実績のとおり、登山者のモラルの向上等により、減少傾向にはありますが、①摘み取りや禁止区域の侵入など、安易な行為が後を絶たない状況にある。②グリーンパトロールの活動期間外にも、業者と思われる、多量の高山植物を採取する行為などが見受けらる。また、新たな問題として③ペット連れ登山者も見掛ける。などの状況が出てきています。



対応策として

- ① 小学生の頃など、早い時期から環境教育を実施することにより、モラルを身につけていく
 - ② 関係機関等との協力の下、活動期間以外の指導を強化していく
 - ③ 上記については、すぐに効果が上がる特効薬的な対策ではないので、今後もグリーンパトロール等の活動を地道に継続していく
- などを考えていきたいと思います。

以上のとおり、課題に対する対応策を上げてきました。しかしながら、対応策については、これだけではないと思いますので、更に関係機関等のお知恵を頂く中で、今後のグリーンパトロール活動に生かしていきたいと考えています。

6 おわりに

高山植物等保護管理事業（グリーンパトロール）は、大きな成果が見えにくい事業なのかもしれませんが、しかしながら、小さいことながらも長年地道に活動が続けることにより、この小さな積み重ねが将来実を結び、高山植物が咲き誇り、ゴミ一つなく、ライチョウなどの希少野生動植物が安心して生息することのできる（写真－1，2）「自然と人が共生する山岳地域」が、白馬から生まれればと期待しているところです。

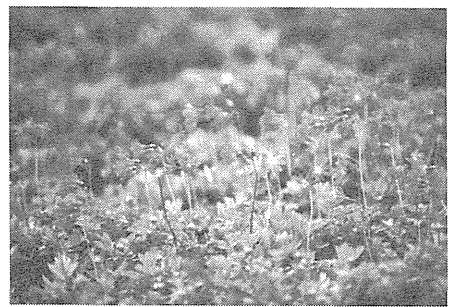
古くからの北米インディアンの諺に「大地や森や川や動物たちは神がつくり、それを神と子孫から借りているだけだ」というものがあります。これは、非常に大事なことを我々にも伝えていると思います。借りたものは大事に使い、貸し手に元のまま返すことができれば、将来に渡り我々の生活や文化を持続していくことが我々の責務と痛感しております。グリーンパトロールの活動が少しでも、その一助になればと思います。（写真－3）

今後も、取り上げた課題に対処し、よりよいグリーンパトロール事業となるよう、努力していく所存です。

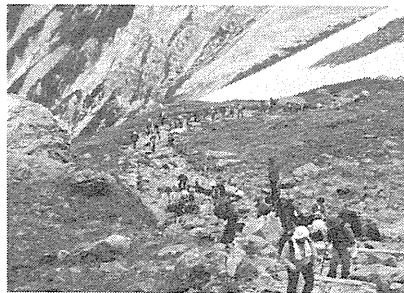
最後に、山小屋をはじめ、山岳関係者各位には、高山植物等保護管理事業に対するご協力に感謝申し上げます、報告とします。



(写真－1：人間を恐れないライチョウ)



(写真－2：ハクサンコザクラ)



(写真－3：巡視・指導風景)